

# 互いに敬い助けあい 「なんもなんも」と響きあう

此あるがゆえに 彼あり

此滅するがゆえに 彼滅し

(中・後略／阿含經典)

お釈迦さまのお説法にある有名な  
お言葉で、仏教の教えの核となる「因  
縁正起（縁起）」の理（ことわり）  
というものです。「此れ」をローソク  
に、「彼」を炎に例えてみましょう。

此（ローソク）あるがゆえに

彼（炎）あり

此（ローソク）滅するがゆえに

彼（炎）滅し



ローソクの立っていない仏具にいくら  
火を点けようとしても火は点きませ  
ん。そこにローソクがあつて初めて火  
を点けることができるのです。また  
ローソクが燃え尽きるにより炎  
もまた滅していきます。ローソクと  
炎は相依り相関係しあうもの（相依  
相関）であり、このことを仏教では  
“縁起”と申します。

私たち夫婦は7年間、子供が授か  
りませんでした。8年目に妊娠し、  
無事出産することを通して初めて親  
になることができたのです。誠に大  
きな喜びでした。子供からしても私  
達両親という存在があつて、この世  
に人として生命を授かったのです。  
子供が誕生しなければ親になること  
も無く、親がいなければ子もまた誕  
生することはなかったのです。この生  
命の不思議な事実気づかされた時

に、人は大きな感動を呼び覚まされ  
るのではないでしょうか。

コーラスもまた同じようなことが言  
えます。一人で歌つていてもコーラス  
になりません。自分以外にハモる旋  
律を歌う人がいて、初めてコーラス  
が成立します。また、コーラスは響  
きが大切です。自分だけが大きな  
声を出して悦に入つても全体として  
良い響きにはなりません。相手の声  
をじっくりと聞き、自分の音程を確  
認しながら調和してこそ初めて素晴  
らしい響きを持ったコーラスになつて  
いくのです。

私達の人間関係も同じようなこと  
が言えると思います。お互いに「あ  
なたあつての私でありました」と頭  
を下げ合う時、「互いに敬い 助け  
あい なんもなんも」と響き合う「い  
のちの世界が開けてくるのです。

“縁起”の理（ことわり）はその  
ことを私達に教えてくれる、素晴ら  
しい教えだと思えます。